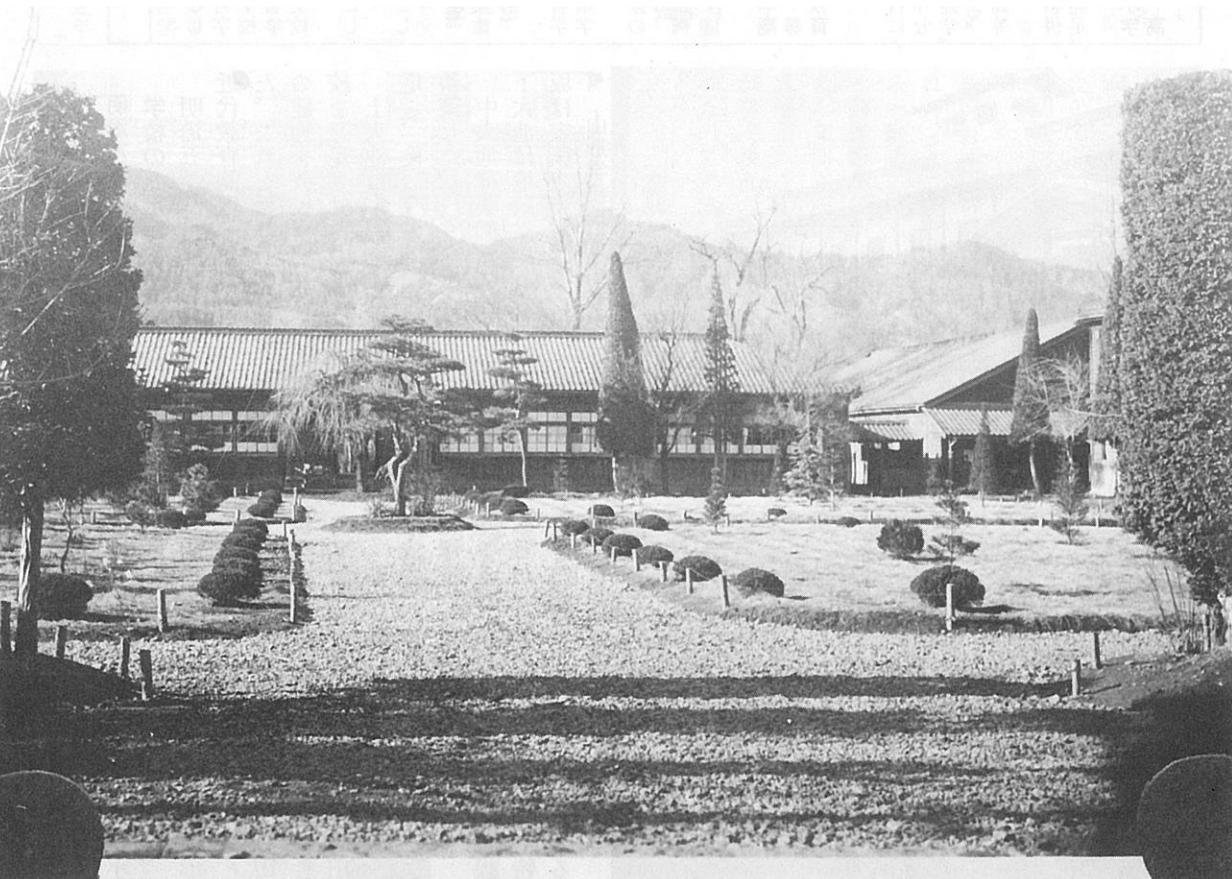


糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館



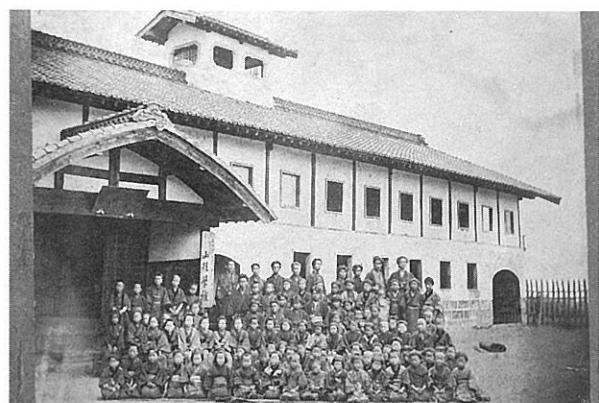
## 学校・学び舎・学びの庭

学校の思い出は、まず、悪童仲間、いたずら仲間のことである。次に先生に拳銃をもらい廊下に立たされたことか……。同級会には決まって、これらの話で持ちきりになり、その時は、昔の悪童の顔になる。それだけに懐かしい。勉強の話など少しも出ない。

学校は「学び舎」といい「学びの庭」といったが、我々悪童仲間には、「遊びの庭」でもあった。そんな中で、遊びや喧嘩や、人との関わり方、生き方を学んだ。

(写真は昭和九年撮影の前庭)

年号	明五 明六 明七 明八 明九 明十 明十一 明十五 明十九 明二三 明二四 明二五 明二六 明三三 明三五 明四〇 明四五	できごと
太政官「学制」を發布。	◆◆	◆◆
大池村宗福寺を仮校舎として 大池学校創立。同年十一月字 中村に校舎新築。精業学校 (中大池・薬師寺)と三省学 校(下大池・地蔵堂)は支校 として設立。	◆◆	◆◆
竹田村薬王寺を仮校舎とし 竹田学校創立。	◆◆	◆◆
小坂村宝積寺を仮校舎とし 遷善学校創立。	◆◆	◆◆
三ヶ村が合併し山形村誕生。 竹田学校が上竹田学校(見性 寺)と下竹田学校(薬王寺) に分かれる。	◆◆	◆◆
遷善学校、精業学校、三省学 校が統合。小坂中島に山県学 校新設。	◆◆	◆◆
竹田の二校が統合。字中原の 荒川沿いに竹田学校を新設。 山県学校を山形学校と改名。 竹田学校は山形学校に統合、 竹田学校は支校となる。	◆◆	◆◆
「小学校令」発布。尋常、高 等各四年の二段階制とし、尋 常小学校の課程を義務教育 とする。	◆◆	◆◆
山形尋常小学校創立。 高等小学校として、今井村に 東筑摩郡高等小学校今井分 教場が発足。本村からも通学 竹田学校で火災。半焼する。 今井・朝日・山形組合立高等 小学校が今井村に発足。	◆◆	◆◆
山形尋常高等学校科併 置。山形尋常小学校に高等科併 置。山形女子補習学校設置。 「小学校令」改正。尋常小学 校(義務教育)が六年に、高 等小学校が二年になる。	◆◆	◆◆



明治八年～十八年  
学校の発足から一校統合  
明治五年八月、新政府は初めての  
近代教育制度として「学制」を発布し  
た。これを受け明治六～八年に寺院  
の建物を仮校舎として、初めての学  
校を発足させた。  
上大池は宗福寺で「大池学校」を発  
足し、後に今の公民館近くへ校舎を  
新築した。  
中大池は薬師堂に「精業学校」を、  
下大池は地蔵堂に「三省学校」を、小  
坂は宝積寺に「遷善学校」を各々発足

## 山形村 学校の歴史

明治六年～十八年

תְּנַשֵּׁאָבָרְבָּשֶׂר

させたが、明治八年に統合し、小坂字中島に「山県学校」を新築した。なお明治十五年には、校名を「山形学校」に変えている。



させたが、明治八年に統合し、小坂字中島に「山県学校」を新築した。なお明治十五年には、校名を「山形学校」に変えている。

両竹田は最初、薬王寺に「竹田学校」を発足させたが、すぐに見性寺の「上竹田学校」、薬王寺の「下竹田学校」にわかれた。しかし明治十一年に統合し、竹田中原の荒川沿いに「竹田学校」を新築した。

こうして山形教育が発祥した訳であるが、児童の就学率は悪く、特に女子の就学率は低かった様である。

明治十九年（一三二年）

尋常小学校の発足と今井分教場  
大池・山形・竹田の三校統合は、  
十九年四月六日に実現し、校舎は山  
形学校の建物を引継いだ。竹田学校  
は分校となつたが、大池学校は廃校  
となつた。統合直後の四月十日に「小  
学校令」が公布され、校名は「山形  
尋常小学校」とされた。また小学校  
令では、「尋常科（三～四年、義務教育）  
と高等科（四年）の二種の学校を規定  
している。

その高等科は一郡一校制で、当初  
東筑摩高等小学校が松本開智学校に  
設置された。しかし通学の便を図る  
ため、二三年に今井分教場が置かれ

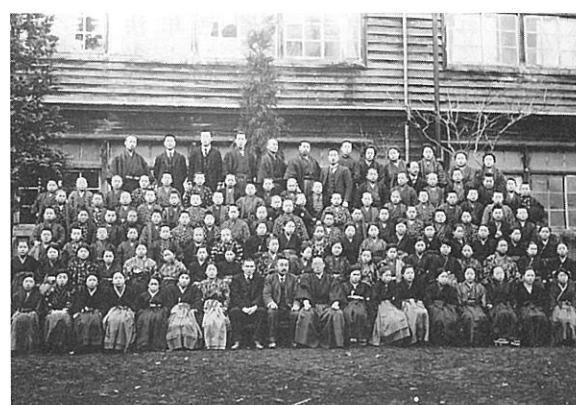


明治三十六年 山形疊當高等小学校

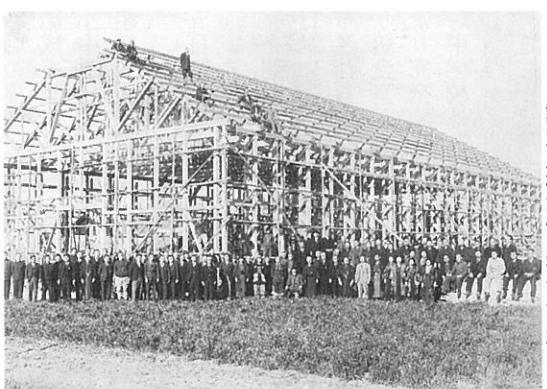
年号	明四二	明四三	明四四	大六	大八	昭一五	昭一六	昭一七	昭一八	昭一九	昭二〇	昭二一	昭二二	昭二三	昭二四	昭二五	昭二六	昭二七	昭二八	昭二九	昭三〇	昭三一	昭三二	昭三三	昭三四	昭三五	昭三六	昭三七	昭三八	昭三九	昭四〇	昭四一	昭四二	昭四三	昭四五	昭四五	昭四五
できごと																																					

更に二五年に、今井朝日山形組合立高等小学校発足となつた。しかしながら、村外への通学を余儀なくされたのである。

明治中期の教育は、自由化政策から一転して国家の規制が強められ、教科書は認可制から検定制に改められた。そして最たるもののが「教育ニ関スル勅語」であり、教育勅語の體本と御真影が各小学校に下賜された。また文部省は、「小学校祝日大祭日儀式規定」を定め、国家的な儀式行事が学校教育の中で行われるようになつたのである。



大正十二年 集合写真



講堂上棟式(昭和十七年)

### 山形尋常高等学校

明治三三年には、尋常科四年・高等科四年の両課程を併置、「山形尋常高等小学校」となり、義務教育は尋常科四年となつた。(明治

四〇年、義務教育が尋常科六年に延長、高等科は二年に。)また明治四二年には、校舎を現小学校地に新築して竹田学校を廃し、完全に村内一校となつた。

この山形尋常高等学校は、昭和十六年満州事変後は、思想統制が強化され、十二年の日中戦争以後は軍国主義化して、学校も時局関連行事や銃後の後援に明け暮れる事となつた。



▲ 山形小学校 旧中校舎

千人台到達であり、当初の六学級(尋常科)が、三倍の十八学級になつた。当然施設の更新が必要で、大正十四年に校舎・雨天体操場等、昭和三年に校舎増築、一〇年に南校舎新築がなされた。加えて現存のグラウンドが整備されたことにより、それまでグラウンドだった表庭が庭園に造成された。学校行事では遠足と修学旅行が定着し、校庭運動会が行われる様になり、野球や庭球の試合が盛んに行われた。

この山形尋常高等学校は、昭和十六年国民学校に改編されるまで四年間続いたが、教育理念は国情に応じ激変の時であつた。特に昭和六年の満州事変後は、思想統制が強化され、十二年の日中戦争以後は軍国主義化して、学校も時局関連行事や銃後の後援に明け暮れる事となつた。

就学率と出生率の向上により、在籍児童数は増え続けた。明治三三年・三四三人→昭和一〇年・

鉢盛中学校が正式に発足。小学校新校舎工事起工。翌年竣工となる。山形・今井・朝日三地区の中学校を鉢盛中学校とし、鉢盛中学校発足。鉢盛中学校が正式に発足。小学校新校舎工事起工。翌年竣工となる。

昭和十六年～三十二年

## 山形国民学校・山形青年学校

半世紀に及んだ「小学校令」が廃され、「国民学校令」が公布された昭和十六年四月、山形国民学校が発足した。「皇国民の練成」を教育理念として、教科や儀式行事を通じて個人主義を排し、団体訓練を重んじて戦勝を祈願した。非常時下的国家の要請にこたえて、軍国に奉仕する青少年の育成に努めたのである。

山形青年学校は、職業及び生活上必要な知識技能を取得させるべく昭和十年に発足したが、次第に戦時色が強くなり、十四年には義務制となつた。教具の他に三八式歩兵銃等が供えられ、本格的軍事教練が行われた。また鳴滝宿泊訓練所があり、一週間位の共同生活訓練が行われ、身心鍛成に努めた。十反歩程の実習農場があり、栽培に加え販売実習も行われ、盛大な収穫祭も催された。昭和二十年八月に終戦を迎えると、占領下で教育の大転換が行われる。一一月には山形村にも進駐軍が入り、軍国主義教育の排除のため、教科書の墨塗り等が行われた。この間教育もまた、歴史上経験したことのない激変の時期であった。

昭和二十二年以降

## 大戦後の新生山形小学校

昭和二十二年に文部省は、教育基本法を制定し、小学校六年・中学校三年・高校三年・大学四年の「六・三・三・四制」を定め、小中学校の九年間を義務教育とした。

山形国民学校は、学校教育法に基づき「山形小学校」に改編された。なお同時に新生した「山形中学校」は、国民学校の初等科六年生と、高等科一年生を編入して学級が組織された。中校舎と北校舎を小学校が、南校舎を中学校が使用した。

新学制の実施と共に文部省は、新教育の実をあげる為には、学校・家



庭・社会が三位一体となり、父母と教師の提携が必要として、PTAの組織を奨励した。山形村でも早速、小中学校連合の「山形学校PTA」を組織し発足させた。

二三年には、従来の週六日制から五日制に切替えられ、土曜日は自主的な学習を家庭にて行う様にしたが、種々問題が生じ、二八年に元の週六日制に戻った。また学校給食法が公布されると、PTAが大きな力となり給食室が設けられ、三〇年十一月より完全給食が実施された。

中学校は二〇年間小学校と同居していたが、昭和四〇年「鉢盛中学校」が誕生し、四二年開校に至った。



### 収蔵図書の御案内

当館では市町村誌や、道祖神・石仏関連の本等を五〇〇冊程収蔵しており、誰でも閲覧することができます。これらの図書は、太田義一先生より寄贈いただいた本が大半で、郷土史を調べる際参考になる文献が多くあります。閲覧する際は入館料等必要ありませんので、お気軽に立ち寄りください。

### 子供の入館料が無料になりました

児童・生徒の皆さんに、村の歴史に触れていただく機会をより増やそうと言うことで、この度中学生以下の入館料が無料となりました。教科書に写真が載っている昔の人々が使っていた道具を目近に見ることができます。ぜひ気軽に立ち寄りください。

開館は毎週土曜日午後一時～五時のみです。なお高校生以上は、従来通り一一〇円になります。

お知らせ